調查報告

第202回 (21/Ⅲ期) 群馬県内企業経営動向調査

群馬経済研究所研究員 井草祐美

◆調査概要

~業況判断 DI は、新型コロナウイルス感染拡大や調達面の停滞により、 3 期連続のマイナスとなる~

- ○2021年7~9月期の県内企業の業況判断 DI は△2.8と、新型コロナウイルス感染拡大や半導体などの調達面の停滞により、3期連続のマイナスとなった。
- ○内訳項目をみると、生産・販売(売上・受注)DIが3期連続で「減少」超、採算DIは 大幅な「悪化」超となり、設備投資DIでも「減少」超が続いた。また、原材料(仕入) 価格DIは5期連続の「上昇」超、人員判断DIは5期続けて「不足」超となった。
- ○業種別に業況判断 DI をみると、製造業が6.8、非製造業が△9.5となり、7業種で「悪化」超(12頁)。製造業では、輸送機器などが「好転」超となり、全体としては「好転」超となった。非製造業では、外出自粛の影響を受けた小売業などが「悪化」超となり、全4業種で「悪化」超、全体としても「悪化」超が続いた。
- ○経営上の問題点では、「売上・受注の停滞、減少」が最多、指摘が増えた「原材料費の値上がり」が続いた(17頁)。
- ○2021年10~12月期の業況判断 DI は△1.7と、「悪化」超が続く見通しである。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売)価格	原材料 (仕入)価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
19 · 4 ~ 6	△ 1.4	△ 4.4	3.1	23.4	△ 6.9	△ 4.5	2.3	△14.3	△34.0
7~9	△ 0.7	△ 0.9	0.0	14.6	△ 3.7	△ 1.6	△ 0.3	△10.1	△39.7
10~12	△ 6.6	△ 8.1	1.2	18.0	△ 9.7	△ 0.5	△ 0.3	△13.5	△36.5
20 · 1 ~ 3	△17.7	△19.9	△ 0.7	14.0	△19.2	△ 5.4	△ 1.6	△ 9.6	△32.2
4~6	△54.8	△57.5	△13.2	△ 2.8	△51.2	△24.3	△11.7	△18.7	2.6
7~9	△15.4	△15.1	△ 4.6	8.0	△18.8	△13.4	0.6	△ 9.2	△11.3
10~12	3.1	2.5	△ 2.1	10.9	△ 5.5	△ 7.1	1.8	△ 5.5	△17.6
$21 \cdot 1 \sim 3$	△19.0	△21.9	△ 3.7	21.5	△20.5	△10.7	△ 1.5	△10.2	△17.1
4~6	△ 9.1	△12.1	2.4	32.1	△18.0	△ 4.8	2.3	△ 6.9	△17.1
7~9	△ 2.8	△ 6.0	2.9	42.1	△17.5	△ 6.7	2.8	△ 9.7	△25.3
(前期比)	(6.3)	(6.1)	(0.5)	(10.0)	(0.5)	(△ 1.9)	(0.5)	(\triangle 2.8)	(△ 8.2)
(前回予測比)	(0.2)	(\triangle 3.6)	(0.3)	(19.5)	(△10.5)	(△ 1.7)	(3.0)	(△ 7.5)	(△ 6.0)
21・10~12見通し	△ 1.7	△ 0.9	4.6	32.9	△12.5	△ 4.7	1.3	△ 2.4	△26.4
(前期比)	(1.1)	(5.1)	(1.7)	(△ 9.2)	(5.0)	(2.0)	(△ 1.5)	(7.3)	(△ 1.1)
D I	好転-悪化	増加-減少	上昇-低下	上昇-低下	好転-悪化	増加-減少	余裕-窮屈	不足一過剰	過剰-不足

群馬経済研究所・ぐんま経済

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1040社 回答社数468社(回答率45.0%)うち製造業192社 非製造業276社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2021年8月上旬~9月上旬

5. 調査対象期間

2021年7~9月期実績、2021年10~12月期見通し(前期比)

◆回答状況

調査回答数

		V 71 AT	構成比	うち		地域別				
				会社数	(%)	中小企業	中央部	東部	その他	
婁	Į	造		業	192	41.0	182	78	87	27
	食	料		品	23	4.9	22	13	8	2
	繊			維	9	1.9	9	2	6	1
	木	材木	製	品	10	2.1	10	4	2	4
	窯	業	土	石	6	1.3	6	1	2	3
	電	灵	機	器	14	3.0	14	6	6	2
	輸	送	機	器	23	4.9	19	7	15	1
	金	属	製	詔	35	7.5	34	14	19	2
	-	般	機	械	19	4.1	18	11	7	1
	そ	の		他	53	11.3	50	20	22	11
非	Ė	製	告	業	276	59.0	259	154	77	45
	卸	売		業	59	12.6	57	37	16	6
	小	売		業	42	9.0	35	28	10	4
	建	設		業	79	16.9	74	35	24	20
	サ	ービ	ス	業	96	20.5	93	54	27	15
4	ì			計	468	100.0	441	232	164	72

注1:地域別

中央部…前橋·高崎地域 東 部…桐生·伊勢崎·太田·館林地域 その他…上記以外の地域

注2:中小企業

製造業……資本金3億円以下または 従業員300人以下 卸売業……資本金1億円以下または 従業員100人以下 小売業……資本金5千万円以下または 従業員50人以下 サービス業…資本金5千万円以下または 従業員100人以下

注3:その他の製造業に含まれる業種 パルプ・紙・紙加工品製造業 印刷・同関連業 化学工業 石油製品·石炭製品製造業 プラスチック製品製造業

ゴム製品製造業 その他、他に区分されない製造業

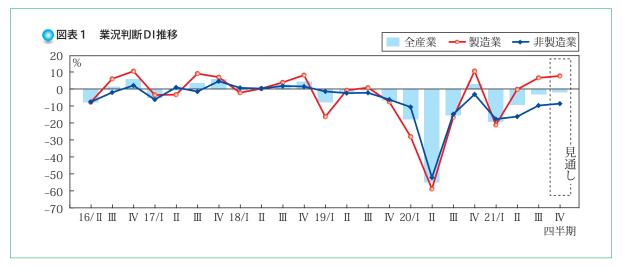
■本文中にあるDIについて

DIは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差 し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「30-10=20」と なる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、 DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向 にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

~新型コロナウイルス感染拡大や調達面の停滞により、3期連続のマイナスとなる~



	21/II	21/Ⅲ(7-9月)	21/W
	実 績	前回予測	実 績	見通し
好 転	13.2	(12.0)	14.4	13.3
変わらず	64.5	(73.0)	68.4	71.7
悪化	22.3	(15.0)	17.2	15.0
全産業DI	△9.1	(△3.0)	△2.8	△1.7

集	製造業 DI	0.0	(0.0)	6.8	7.9
	食料品	10.4	(0.0)	△21.8	0.0
	繊維	0.0	(△7.7)	22.2	△22.2
	木材木製品	△20.0	(△10.0)	0.0	0.0
	窯業土石	△28.6	(0.0)	△16.7	16.6
	電気機器	△14.3	(7.2)	△7.1	7.1
	輸送機器	△30.0	(20.0)	21.7	39.1
	金属製品	12.2	(△14.6)	22.8	14.3
	一般機械	15.8	(10.6)	0.0	△5.3
	その他	6.8	(△1.7)	9.5	3.8
j	‡製造業 DI	△16.0	(△5.2)	△9.5	△8.4
	卸売業	△5.0	(△8.4)	△10.1	△3.4
	小売業	△16.2	(0.0)	△12.2	△7.3
	建設業	△13.4	(△8.6)	△11.4	△15.2
	サービス	△23.9	(△2.8)	△6.3	△6.3

【21年7~9月期】

○全産業

新型コロナウイルス感染拡大や半導体など の調達面の停滞により、全体のDIは△2.8 とマイナスが続いた。7業種で「悪化」超。 「悪化」超幅は前回予測とほぼ同程度となっ た。

○製造業

食料品は業務用などの需要減から大幅な「悪化」超に転じた。一方、一時的に生産が持ち直した輸送機器が「好転」超に転じるなど、製造業全体では「好転」超となった。

○非製造業

小売業では外出自粛による衣料品や燃料などの需要の落ち込み、建設業では価格競争の激化から「悪化」超が続いた。全4業種で「悪化」超となり、非製造業全体のDIは△9.5と、11期連続の「悪化」超。

【21年10~12月期(見通し)】

○全産業

DI は \triangle 1.7と「悪化」超幅は縮小するものの、引き続き「悪化」超が続く見通し。

○製造業

「好転」超での推移となる見通し。

○非製造業

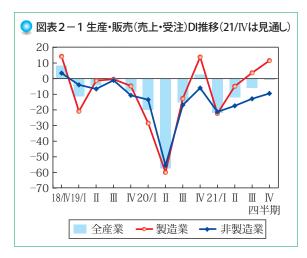
引き続き「悪化」超となる見通し。

2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

~3期連続の「減少」超~

		21/II	21/Ⅲ(7-9月)	21/N
		実 績	前回予測	実 績	見通し
	増 加	14.2	(14.4)	16.0	16.6
	横ばい	59.5	(68.8)	62.0	65.9
	減少	26.3	(16.8)	22.0	17.5
	全産業DI	△12.1	$(\triangle 2.4)$	△6.0	△0.9
製	造業 DI	△5.0	(0.9)	3.6	11.4
	食料品	10.7	(3.5)	△34.8	13.1
	繊維	$\triangle 7.7$	$(\triangle 7.7)$	0.0	△33.3
	木材木製品	△10.0	(0.0)	0.0	10.0
	窯業土石	△28.6	(0.0)	△16.7	16.6
	電気機器	△21.5	(7.2)	△7.1	$\triangle 7.2$
	輸送機器	△30.0	(16.6)	17.4	43.5
	金属製品	14.6	$(\triangle 9.7)$	22.9	22.9
	一般機械	10.5	(10.5)	5.2	△5.3
	その他	△10.2	$(\triangle 3.3)$	7.5	7.6
非	製造業DI	△17.5	(△4.8)	△13.0	△9.6
	卸売業	△6.8	$(\triangle 5.0)$	△19.0	△3.5
	小売業	△28.5	(2.4)	△14.7	△22.0
	建設業	△15.9	(△11.0)	△17.7	△12.6
	サービス	△20.2	(△2.7)	△4.3	△5.4



【21年7~9月期】

○製造業

輸送機器は「増加」超に転じたものの、依 然半導体不足による不安定な生産が続いて いる。

○非製造業

業務用食品など外出自粛の影響を大きく受けた卸売業や、建設業などで大幅な「減少」超となった。

(2)製商品(販売)価格

~「横ばい」が約9割を占める~

	21/II	21/Ⅲ(7-9月)	21/N
	実 績	前回予測	実 績	見通し
上 昇	8.2	(6.4)	8.2	8.8
横ばい	86.0	(89.8)	86.5	87.0
低 下	5.8	(3.8)	5.3	4.2
全産業DI	2.4	(2.6)	2.9	4.6
製造業DI	6.0	(4.1)	3.7	7.9
食料品	14.3	(10.7)	4.3	17.4
繊維	△25.0	(△16.7)	△11.1	△11.1
木材木製品	40.0	(10.0)	40.0	30.0
窯業土石	0.0	(0.0)	0.0	16.7
電気機器	7.1	(7.1)	△7.1	0.0
輸送機器	3.3	(3.4)	0.0	4.3
金属製品	9.8	(14.6)	14.3	14.3
一般機械	5.3	(△5.3)	△5.3	$\triangle 5.2$
その他	1.7	(0.0)	0.0	5.8
非製造業DI	△0.4	(1.4)	2.3	2.3
卸売業	17.3	(13.8)	27.1	25.4
小売業	4.7	(4.8)	△2.3	$\triangle 2.3$
建設業	△6.4	(△5.1)	△3.9	$\triangle 2.7$
サービス	△7.9	(△1.9)	△7.0	△7.1



【21年7~9月期】

○製造業

世界的な木材需給の逼迫により、住宅用パネルや家具などの木材木製品で大幅な「上昇」超が続いている。

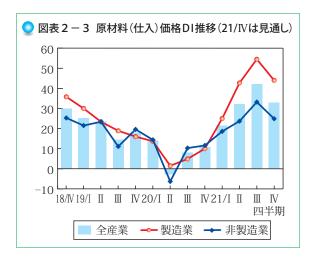
○非製造業

鋼材や木材などの建築資材の価格高騰が続き、卸売業で「上昇」超幅が拡大した。

(3)原材料(仕入)価格

~5期連続の「上昇」超~

	21/II	21/III(7-9月)	21/N
	実 績	前回予測	実績	見通し
上 昇	34.1	(24.8)	43.4	34.2
横ばい	63.9	(73.0)	55.3	64.5
低 下	2.0	(2.2)	1.3	1.3
全産業DI	32.1	(22.6)	42.1	32.9
製造業DI	42.7	(27.3)	54.5	44.0
食料品	31.0	(10.3)	52.2	52.2
繊維	16.7	(0.0)	11.1	22.2
木材木製品	50.0	(40.0)	70.0	40.0
窯業土石	14.3	(0.0)	33.3	33.3
電気機器	71.4	(42.9)	64.3	71.4
輸送機器	50.0	(36.7)	47.8	39.1
金属製品	65.9	(48.8)	80.0	57.1
一般機械	57.9	(36.8)	52.6	31.5
その他	24.1	(15.5)	46.2	36.6
非製造業DI	23.7	(19.0)	33.2	24.9
卸売業	41.4	(41.4)	47.5	40.7
小売業	16.7	(19.0)	9.5	4.7
建設業	23.4	(17.3)	48.1	39.0
サービス	16.3	(7.2)	21.9	11.5



【21年7~9月期】

○製造業

半導体不足や、木材・金属などの高騰により、木材木製品や電気機器、金属製品などで大幅な「上昇」超となった。

○非製造業

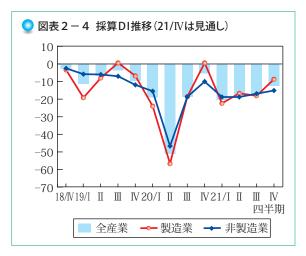
建築資材などの高騰を受けた卸売業や建設 業などで「上昇」超幅が拡大した。

(4)採 算

~大幅な「悪化」超~

		21/II	21∕∭(`	7-9月)	21/W
		実 績	前回予測	実 績	見通し
	好 転	8.2	(9.4)	6.9	8.2
	変わらず	65.6	(74.2)	68.7	71.1
	悪 化	26.2	(16.4)	24.4	20.7
	全産業DI	△18.0	$(\triangle 7.0)$	△17.5	△12.5
da	1 V4- VIV TO I	. 10.0	(, = =)	. 10.0	100
宏	造業DI	△16.8	$(\triangle 5.5)$	△18.2	△8.8
	食料品	△3.5	$(\triangle 3.4)$	△26.1	△13.0
	繊維	△16.6	(△16.6)	△22.2	△22.2
	木材木製品	△30.0	$(\triangle 20.0)$	△30.0	△20.0
	窯業土石	△28.6	(0.0)	△33.3	16.6
	電気機器	△35.7	(0.0)	△28.6	△21.5
	輸送機器	△36.6	(10.0)	△4.3	17.4
	金属製品	$\triangle 7.5$	(△17.5)	△20.0	△5.7
	一般機械	△15.7	$(\triangle 5.3)$	△10.6	△10.6
	その他	△11.8	(△3.4)	△15.1	△15.1
非	製造業DI	△18.9	(△8.2)	△17.0	△15.2
	卸売業	△15.2	(△10.2)	△12.1	△13.8
	小売業	△14.3	$(\triangle 7.1)$	△14.2	△14.3
	建設業	△18.3	(△12.2)	△24.3	△20.5
	サービス	△23.2	(△4.6)	△15.1	△11.8

01 /11 01 /11 /7 00 01 /77



【21年7~9月期】

○製造業

食料品、繊維、金属製品などで「悪化」が 増加し、全9業種で「悪化」超となった。

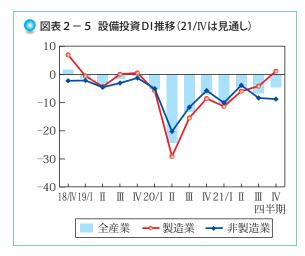
○非製造業

全4業種で「悪化」超となった。特に建築 資材高騰と価格競争激化から建設業での 「悪化」超が目立った。

(5)設備投資

~「減少」 超が続く~

		21/II	21/Ⅲ(7-9月)	21/N
		実 績	前回予測	実 績	見通し
	増 加	11.5	(10.9)	9.5	8.4
	横ばい	72.2	(73.2)	74.3	78.5
	減少	16.3	(15.9)	16.2	13.1
	全産業DI	△4.8	(△5.0)	△6.7	△4.7
製	造業 DI	△6.0	(2.3)	△4.2	1.1
	食料品	0.0	(13.8)	0.0	9.1
	繊維	△50.0	(\(\triangle 25.0\)	△37.5	0.0
	木材木製品	△12.5	(0.0)	0.0	△10.0
	窯業土石	0.0	(△14.3)	△33.3	0.0
	電気機器	$\triangle 7.2$	(21.4)	△7.1	7.2
	輸送機器	$\triangle 3.4$	(0.0)	△4.4	8.7
	金属製品	△10.0	$(\triangle 15.0)$	△8.8	△8.8
	一般機械	5.6	$(\triangle 5.6)$	△21.1	△21.1
	その他	$\triangle 1.7$	(15.5)	11.6	9.6
非	製造業DI	△3.9	(△10.6)	△8.4	△8.8
	卸売業	△17.5	(△15.8)	△8.9	△10.7
	小売業	7.3	(△4.9)	5.0	10.0
	建設業	△7.5	(△13.7)	△9.1	△18.2
	サービス	1.9	$(\triangle 7.7)$	△13.4	△7.8



【21年7~9月期】

○製造業

製造業全体では引き続き「減少」超。製造業全体の設備投資目的は、老朽化対応、合理化・省力化が中心であった。

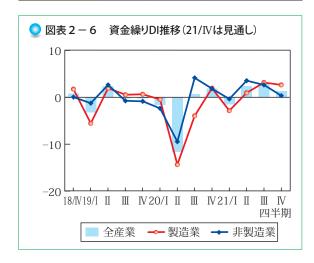
○非製造業

3業種で「減少」超となり、全体でも「減少」超。非製造業全体の設備投資目的では、 老朽化対応が目立った。

(6)資金繰り

~ほぼ横ばいで推移~

	21/II	21/11(7-9月)	21/N
	実 績	前回予測	実 績	見通し
余 裕	12.4	(10.8)	12.4	11.1
普 通	77.5	(78.2)	78.0	79.1
窮 屈	10.1	(11.0)	9.6	9.8
全産業DI	2.3	(△0.2)	2.8	1.3
製造業DI	0.9	(△2.3)	3.1	2.6
食料品	13.8	(10.3)	△4.3	△4.3
繊維	△46.2	(△46.2)	△11.1	△22.2
木材木製品	0.0	(0.0)	0.0	0.0
窯業土石	0.0	(△14.3)	△33.3	△16.7
電気機器	28.6	(21.4)	14.3	21.5
輸送機器	△13.3	(△13.3)	△13.0	$\triangle 4.3$
金属製品	△2.5	(△12.5)	5.9	0.0
一般機械	0.0	(10.5)	21.0	15.8
その他	8.5	(5.1)	9.6	7.7
非製造業DI	3.5	(1.4)	2.6	0.3
卸売業	1.7	(5.2)	3.5	1.7
小売業	11.7	(6.9)	12.2	7.3
建設業	12.8	(7.7)	3.9	1.3
サービス	△5.6	(△7.4)	△3.2	△4.2



【21年7~9月期】

○製造業

窯業土石などが「窮屈」超に転じた一方、 一般機械で「余裕」超に転じた。製造業全 体では「余裕」超が続いた。

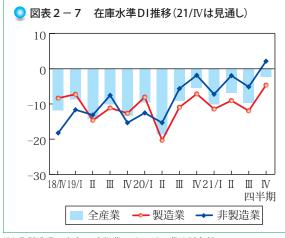
○非製造業

旅館・ホテル中心にサービス業は引き続き 「窮屈」超であったが、他の3業種では「余 裕」超が続いた。

(7)在庫水準

~8割は「適正」~

		21/II	21∕∭(`	7-9月)	21/N
		実 績	前回予測	実 績	見通し
	不 足	7.2	(7.5)	4.9	7.7
	適正	78.7	(82.8)	80.5	82.2
	過剰	14.1	(9.7)	14.6	10.1
	全産業DI	△6.9	$(\triangle 2.2)$	△9.7	$\triangle 2.4$
制	上造業 DI	△9.1	(△4.5)	△12.0	△4.7
玄			` /		-
	食料品	△13.8	$(\triangle 3.5)$	△8.7	0.0
	繊維	15.4	(0.0)	△33.3	0.0
	木材木製品	10.0	(50.0)	0.0	10.0
	窯業土石	△14.3	(△28.6)	△16.7	△16.7
	電気機器	△7.2	(△21.4)	△14.3	△7.1
	輸送機器	△34.5	(△17.3)	△13.0	$\triangle 4.4$
	金属製品	$\triangle 2.5$	$(\triangle 2.5)$	△11.4	△8.6
	一般機械	0.0	(0.0)	△10.5	5.3
	その他	△10.2	(△5.1)	△11.6	△9.6
非	製造業DI	△2.0	(3.0)	△5.2	2.1
	卸売業	△1.7	(1.7)	△8.5	0.0
	小売業	△2.4	(4.7)	0.0	5.4
	建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
	サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0



注) 非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

【21年7~9月期】

○製造業

繊維や電気機器で「過剰」が増え、製造業 全体で「過剰」超が続いた。

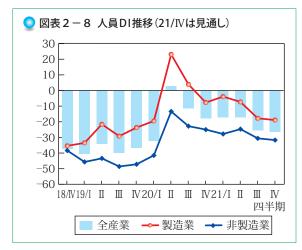
○非製造業

卸売業、小売業ともに「適正」が8割を占めた。

(8)人 員

~5期連続の「不足」超~

		21/II	21/Ⅲ(7-9月)	21/N
		実 績	前回予測	実 績	見通し
	過剰	11.4	(8.1)	8.5	6.5
	適正	60.1	(64.5)	57.7	60.6
	不 足	28.5	(27.4)	33.8	32.9
	全産業DI	△17.1	(△19.3)	△25.3	△26.4
步	造業 DI	△7.3	(△8.7)	△17.8	△18.9
20	食料品		(\(\triangle 10.4\)	△17.4	△17.4
	繊維	0.0	$(\triangle 7.7)$	△33.3	△11.1
	木材木製品	0.0	(△40.0	△40.0
	窯業土石	△28.6	(△28.6)	△50.0	△50.0
	電気機器	0.0	(14.3)	21.4	7.2
	輸送機器	10.0	(△6.6)	4.4	△13.1
	金属製品	$\triangle 2.5$	$(\triangle 2.5)$	△17.1	△8.6
	一般機械	△47.3	(△36.8)	△31.5	△26.3
	その他	△6.7	(△6.7)	△23.0	△27.0
非	製造業DI	△24.7	(△27.4)	△30.6	△31.7
	卸売業	△15.8	$(\triangle 17.5)$	△12.1	△13.8
	小売業	△9.3	(△9.3)	△20.0	△20.0
	建設業	△45.6	(△45.6)	△44.8	△47.4
	サービス	△20.1	(△26.6)	△35.1	△35.1



【21年7~9月期】

○製造業

繊維と木材木製品で「不足」超に転じ、製造業全体で「不足」超が拡大した。

○非製造業

建設業では5割近くが「不足」と回答し、 人手不足感が継続した。非製造業全体でも 大幅な「不足」超が続いた。

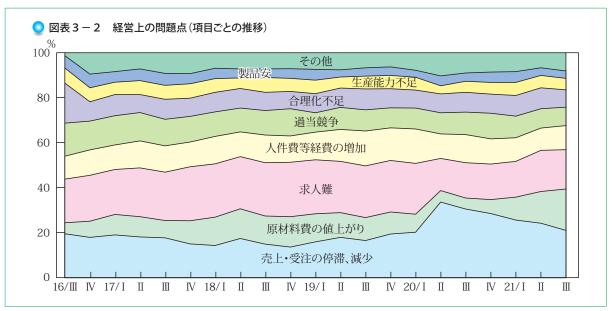
3. 経営上の問題点

~ 「売上・受注の停滞、減少」が最多、「原材料費の値上がり」は2位となった~

図表3-1 経営上の問題点

(単位:%)

項目	21年 4~6月期	21年 7~9月期	前期比増減	回答の多い業種
売上・受注の停滞、減少	53.5	49.3	△4.2	窯業土石、電気機器、小売業
原材料費の値上がり	31.1	43.0	11.9	木材木製品、金属製品、電気機器
求 人 難	40.5	41.0	0.5	窯業土石、サービス業、建設業
人件費等経費の増加	22.0	25.1	3.1	木材木製品、食料品、小売業
過当競争	19.0	19.3	0.3	窯業土石、建設業、卸売業
合 理 化 不 足	20.6	18.2	△2.4	食料品、繊維、木材木製品
生産能力不足	12.2	11.9	△0.3	電気機器、建設業、窯業土石



注:図表3-2の分母は、本項目(問題点)についての回答数(複数回答)合計。

経営上の問題点をみると、1位「売上・受注の停滞、減少」、2位「原材料費の値上がり」、3位「求人難」の順となった。「売上・受注の停滞、減少」は減少した一方で、「原材料費の値上がり」が増加し、「求人難」を上回った。

回答の多い業種は、「売上・受注の停滞、減少」では窯業土石、電気機器、小売業など、「原材料費の値上がり」では木材木製品、金属製品、電気機器など、「求人難」では窯業土石、サービス業、建設業などとなった。